



24096
601

南砺市長

田中 幹夫 殿



電気設備工事の分離発注継続のお願い

私ども富山電業協会は、電気設備工事に関する高度の専門技術集団として、そのノウハウを駆使し、施主の皆様方に品質・価格等の面で最もご満足頂けるよう、日頃より自信と誇りをもって事業に励んでおります。

ところで、かつて電気設備は建物の付帯設備と位置付けられ、その発注は建物の躯体に含まれて発注される「一括発注」が多くみられました。

しかしながら、今日、施設の利便性、快適性、安全・防災性などのニーズの高まりに伴い、電気設備は益々高度化・複雑化し、今や建築物が機能を発揮するための最重要システムになっております。加えて、最近では地球環境配慮、ライフサイクルコストの縮減、IT技術の活用のための基盤整備が強く求められており、電気設備業界が責任を果たさなければならない場面が多くなっております。

また、施工技術の面におきましても著しく専門化が進み、躯体から独立した施工管理、コスト管理、品質保証など施工責任の明確化が強く求められております。

このような視点から、躯体とは別発注の「分離発注」こそが最も合理的な発注システムであり、施主の皆様のニーズにもかなうものと考え、業界を挙げて「分離発注」の運動を展開してまいりました。

その結果、お陰様をもちまして官公庁工事につきましては、永年に亘り「分離発注」が原則とされております。

一方、民間工事におきましては、「分離発注」についてのご理解が深まりつつありますものの、現状ではまだ「一括発注」が多く見られ、コストの透明性が保てないのはもとより、設備の施工、アフターケア、リニューアルなどに際し、施主の皆様から直接ご意向を伺う、あるいは私どもから提案をさせていただくなどの面で、適時的確な対応が出来にくいなどの問題が生じております。加えて、近年厳しい受注環境下での、ゼネコン業界の熾烈な価格競争の結果が設備業界に波及し、コストの合理性が失われるだけでなく、工事の品質、安全、下請労働者の待遇などに深刻な影響を及ぼしかねないものがあります。結果としてライフサイクルコストが高くなるなど、施主の皆様の真の利益も確保出来ないこととなります。

今後わが国におきましては、高度技術化・情報化社会の一層の進展に伴い、電気設備工事の重要性・専門的ノウハウの必要性は、益々高まっていくものと考えられます。平常時は元より不測の災害時には、電気設備について地域住民の安心・安全を守る責務があります。

どうか以上の事情をご理解いただき、電気設備工事の発注につきましては、今後共継続して建築主体と分離のうえ、発注賜りますよう切にお願い申し上げます。

平成24年9月吉日

社団法人 富山電業協会
会 長 松岡 幸雄

